

事業所活動紹介

各事業所の取り組みについて紹介いたします。

スペシャルな瞬間を目指して



向陽園
ホームヘルプステーション
心音

今回は余暇支援の一部をご紹介します。在宅で生活するSさん、いつもはボーリングやカラオケ等を楽しまれるのですが、その日はよく晴れた冬の日でしたので、「蔵王に行ってロープウェイに乗りませんか？」とお誘いしました。蔵王山麓駅からの景色は最高で、Sさんは笑顔で体いっぱい喜びを表現しており、自然の中でリフレッシュすることができたようでした。また、天童のグループホームで生活しているKさんとの外出では、その日行われていた人間将棋にお誘いしました。イベントが大好きなKさんは舞鶴山の会場まで頑張って登りきり、ワインの試飲や買い物を楽しむなど、いつもとは違う時間をすごすことができました。

このように、その日の天気やイベントに合わせて、臨機応変に行き先を決めていけるのも、マンツーマンである事業の強みだと思います。様々な体験ができるよう、職員は日々情報収集を行い、行き先の提案をしています。利用する方々にとってはその日が月に1回、人によっては年に数回のスペ

シャルな日になります。そのような瞬間に立ち会えることに、この仕事のやりがいを感じています。これからもご利用していただく方が笑顔で楽しめる支援を提供していきたいと思っています。

[向陽園ホームヘルプステーション心音
サービス提供責任者 宮崎 一計]



利用者の新たな一面を見つける外出支援

向陽園
生活介護事業所

向陽園生活介護事業所では、新たな交流の機会をつくり様々な経験をしていただくことを目的とし、グループ外出に力を入れております。

日頃は、3つの班に分かれて活動を行っておりますが、グループ外出で出かける際には、班の垣根を越えてグループを組んでいただきました。また、場所を決める際には写真を用いるなどして、



それぞれの利用者の特性にあわせた形で、丁寧に聞き取りを行いました。

今年度一回目の外出は、寒河江つつじ公園、公園内を散策後かっぱ寿司にて昼食を食べていただきました。利用者お2人での外出でしたが笑顔がたくさん見られ、行きかう人に挨拶する姿など普段はなかなか見られない一面を見ることができました。また、食事の際も自ら手を伸ばす様子が見られたり、ご自身が食べ終わると「～さん(職員)も食べろ」「ゆっくりどうぞ」等優しい言葉をかけてくださる場面もありました。

今後も様々な外出の提案を行っていくことで、社会経験を積むと共に、より充実感や満足感を感じて頂けるよう支援していきたいと思っています。

[障害者支援施設 向陽園生活介護事業所
支援員 斎藤 徳]

愛泉会 セミナー

1人ひとりが学び成長できる職場となるよう、今年も法人内・事業所内の研修に力をいれています。

令和4年度実践研究発表会について

令和5年3月25日、山形市総合福祉センターの交流ホールにて令和4年度実践研究発表会を開催いたしました。この実践研究発表会は、日々の支援をとおして得られた気づきから学びを深め、それを職員全体で共有することにより、さらなるサービスの質向上につなげることを目的として開催しております。今回は久しぶりの集合での開催となり勤務の都合等で参加できない職員もおりましたが、職員70名以上が参加いたしました。

当日は、東北福祉大学教授都築光一氏より当法人の地域移行調査事業についてご講演をいただいた後、8つの事業所が研究発表を行いました。

各事業所にて約1年かけて取り組まれた内容はどれも大変興味深いものばかりで、職員の日々の取り組みだけでなく、その取り組



みから考察される効果や課題についても発表をとおして知ることができました。

また、昨年度の研究内容については会場発表だけでなく、オンラインでの発表も予定し、現在準備を進めております。そして、今年度の実践研究についても、すでに各事業所にてテーマ検討が始められています。実践研究発表会をはじめとし、1人ひとりが成長できる職場となるよう様々な研修や学びの場を今後も企画、検討していきたいと思っております。

[創造企画部 支援員 塚田 実央]



令和4年度の実践研究内容を
3号にわたり、ご紹介いたします。

第1弾 「地域活動支援センター天花」

ストレンスを活かした 個性的な活動からの仲間作り

地域活動支援センター天花は、利用者の「こんなことをしてみたい」という希望を大切にしたい個性的な活動を実施しています。

Aさんは、旦那さんとお子さんと生活しています。イラストを描くのが好きで「昔は絵本作家になるのが夢だった」と話しており、天花で絵本作りに挑戦。体調を崩しながらも絵本を完成させました。その後は事業所のイラスト担当として活躍してくれています。



Bさんは一人暮らしの女性です。点字が好きで、Aさんの絵本を点訳してくれました。また手芸も好きであることから、Bさんが製作した手芸おもちゃを、放課後デイサービスへの寄付を目標とし実現してくれました。

2人の活動を支えたのは「仲間たちの評価」です。すごい!かわいい!等と評価される事で喜びとやりがいを感じて、それはきっと「勇気」に繋がっていたと思います。もう一つは「誰かの役に立っていること」です。それが本人達の「自己効力感」に繋がっている力を発揮してくれたと感じています。

「私たちは「孤独」と「孤立」の障がいだ」と利用者さんから教えていただいたことがあります。仲間がいる安心感や信頼感、それがピアサポートになりました。2人は自身の力を信じてことができ、行動的になったり仲間との会話も増えたりしています。地域活動支援センター天花は、利用者の皆さんと一緒に悩み一緒に考える、そんなピアサポートをこれからも大切にしていきます。

[地域活動支援センター天花
支援員リーダー 仲川 幸博]

